



ア ド バ ン ス

Advance (前進)

佐世保市立山澄中学校
令和4年8月9日

文責 校長 山口一成

忘れまじ、そして語り継ごう！長崎への原爆投下(77年前の8月9日、11時2分)

今から77年前の今日、長崎の街は地獄と化しました。たった1発の原子爆弾(ファットマン)が投下され、当時の長崎市人口24万人(推定)のうち約7万4千人の尊い命が奪われ、建物は約36%が全焼または全半壊しました。全世界の中で歴史上、この原子爆弾が投下されたのは、わずか2回で、その2回が日本の広島と長崎なのです。同じ過ちを繰り返してはならない！「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」を強く全世界へアピールすることが、日本に否、広島と長崎に住む人々に与えられた使命であると思います。今、一番恐ろしいことは「忘却」であり、その果てに同じ事が繰り返されることです。自分がまだ小学生だった頃は、担任の先生が当時のことを生々しく語ってくれました。しかし、今の教師で当時のことを話せる人は当然だれもおりません。「記録をもとに話すことはできても、記憶で話せる人はだれもいません」しかしながら、後世に引き継ぐことを決して絶やすことは避けなければなりません。

右の写真は、原爆が投下された廃墟に呆然として、たたずむ幼子を背負った母親の姿です。まだ幼い乳飲み子を背負った母親は、一体何を思い、何をみつめているのでしょうか？原爆が投下された日から77年が過ぎました。しかし、その傷跡は今も心に残り、まだ戦争は終わっていないことを考えて下さい！



長崎出身の歌手、福山さんのメッセージ

クスノキ 作詞：福山雅治

我が魂は この土に根差し 決して朽ちずに
決して倒れずに 我はこの丘 この丘で生きる
幾百年越え 時代の風に吹かれ 片足鳥居と共に
我が魂は 奪われはしない この身折られど
この身焼かれども 涼風も爆風も 五月雨も
黒い雨も ただ浴びて ただ受けて ただ空を
目指し 我が魂はこの土に根差し 葉音で歌う
生命の叫びを 我が魂は この土に根差し 決して
朽ちずに 決して倒れずに 我はこの丘
この丘で生きる 幾百年越え 時代の風に吹かれ
片足鳥居と共に
人々の 営みを
歓びを かなしみを
ただ見届けて



コロナ対策と熱中症の夏休み！

新型コロナウイルス感染拡大の第7波の到来で、長崎県内の感染者数も過去最高の数字を連日記録を更新しています。一体、いつまでこの状況が続くのか、先行きが全く見えない状態です。昨年であれば、とっくにレベル3の段階の措置が講じられ、行動制限で学校行事等の中止や延期を検討しなければならない事態になるのですが、今年は行動制限が無く、今のところ計画通りに進めていく予定でいます。

せっかくの夏休みですが、コロナや熱中症の対策を講じながら、どうか毎日を過ごすだけで、どこにも行けず楽しみが少ない時を過ごしているのではないのでしょうか。

災害級の猛暑・地震・洪水被害・大型台風が発生など、地球規模の気候変動の影響、ウクライナ情勢、世界的な物価の上昇など課題は山積みです。これから世界はどうなっていくのか？真剣に考えなければなりません。

第2学期始業式は29日です！

いよいよ夏休みも半分以上が過ぎ、折り返し地点を通過しました。毎日の生活は充実していますか？事前の計画は順調に進んでいますか？特に3年生は、受験生としての意気込みは忘れていませんか？さあ、ここで軌道修正してみてください！いろいろと悩むより、とにかく手を動かして、一つでも多くのことをマスターしてみてください。15の春を笑って迎えらるかどうか、正念場ですよ！